

第1期 国分寺市公民館運営審議会 平成29年度第21回定例会 要点記録

日時 平成29年5月23日(火) 午後4時～5時

場所 国分寺市立本多公民館 集会展示室

出席者

委員 佐藤委員長・田中(英)副委員長・門委員・長谷部委員・橋本委員・萩原委員・戸澤委員・大澤委員・伊藤委員・田中(雅)委員(欠席委員1人)

職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・野中恋ヶ窪公民館長・加藤光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・山口本多公民館事業係長・木場主任

1 連絡事項

(1) 配布資料確認

(2) 第19回・第20回定例会要点記録⇒修正がある場合は、5月末までに連絡をいただきたい。

2 報告事項

(1) 平成29年国分寺市教育委員会第4回定例会について

事務局：平成28年度教育委員会名義後援，図書館への本の寄贈について報告があった。公民館に関しては，1つ目は公共施設予約システム導入に伴う「国分寺市公民館使用条例施行規則の一部改正」で，別表の使用申請書の受付期間を全館統一するもの。2つ目は第2期公民館運営サポート会議委員の委嘱についてで，任期は5月1日から。本多以外の4館はすでに第1回の定例会議を実施。

(2) 平成29年国分寺市議会第2回定例会について

事務局：通常は6月開催だが，7月2日に市長選があるため5月に開催している。一般質問では，公民館に関することはなかったが，防災の取り組みについて女性や若い人の視点を取り入れてほしいという意見に対し，公民館の講座などでの取り組みを総務部が紹介した。公共施設予約システムについては直接公民館に関わる質問はなかった。文教子ども委員会においても，公民館に関わる議案・報告はなかった。

(3) 公共施設予約システムについて

事務局：資料に基づき説明。公民館では3月末に臨時利用者懇談会，4月上旬から中旬にかけて定例の春の利用者懇談会を実施し説明を行った。4月末から5月にかけて，ホール・スポーツ施設も含めた全ての対象施設で，システムの概要と利用団体登録について利用者説明会を行った。3回の懇談会・説明会で5館あわせて685人が参加。利用登録に関すること，会場受付を1年間継続にすること，1年後の対応についてなど，さまざまな意見が出ている。

委員：公民館運営サポート会議の委員については報酬が無償と聞いているが，

遠方から来る委員については交通費ぐらいは出るのか。

事務局：交通費も含めて出ない。

委員：市外の方に委員を依頼する場合は何かしら対応が必要ではないか。

事務局：なかなか難しい。公民館運営サポート会議と協働で事業を行うなど、事業費の中で対応できないかを検討したい。

委員：今後の課題としてとらえてもらいたい。

委員長：公共施設予約システムは問題なく進行しているのか。

委員：公民館運営サポート会議で逐一進捗状況は報告いただけると認識している。利用者がどう理解するかが重要。この1年をかけ納得のいくように進めてほしい。

委員長：各館の公民館運営サポート会議でしっかり議論してほしい。

委員：東京都公民館連絡協議会委員部会の報告をする。4月26日に委員部会長市である昭島市公民館で開催。今年度も委員対象の研修会を2回行うこと、加盟市を増やすためのPR活動について話し合った。施設見学については、5月に小平市仲町テラス（仲町公民館）を見学する。

3 協議事項

(1) 答申について

委員長：2年間、試行錯誤と努力を重ねた成果が出来上がった。技術的な修正は確認し事務局へ連絡してほしい。公民館運営審議会として承認したい。また今日は2年間の感想と今後への課題などを聞きたい。

委員：私は、定年後に公民館の講座に関わったのでまだ公民館歴は浅い。それまでは、私の人生で公民館は無くてよい存在だった。団塊の世代は何もしなくても情報は入ってくる人生を歩んできた。定年を迎え、私は公民館の講座を通じて上手く地元に戻ってこられたが、それができない人はもったいないと思う。答申を通して、公民館にはいろいろな情報があること、きっかけがあることを広められたらいいと思う。

委員長：答申の活用など、アイデアもあれば合わせて聞かせてほしい。

委員：公民館に関わり始めた最初の頃は、自分の活動だけしかわからなかった。2年間の委員活動を通じ、他館の状況や、改めて自分の館のことを学ぶことができた。この答申は5館の状況をまとめたものであり、読んだ人が公民館に行きたくなるように感じて貰いたい。どうやって市民の方にこの答申を読んでもらえるかが難しい。

委員長：概要版を作る案もある。

委員：公民館運営サポート会議の意見も概要版に載せてほしい。

委員：この2年間、活動を通じ、さまざまな学習を行ってきた。これを広げていくことが重要であると感じている。利用したことがない館のことも知ることができてよかった。この答申は、公民館を知りたい人が読めばいろいろ書いてあるが、ちょっと公民館に来た人が見るには重すぎる。概要版に期待したい。事務局への要望として要点記録の発送が遅い。欠席した回の会議の様子がわからず、録音を聞かせてほしいと

お願いしたが断られた。であるならば要点記録をしっかりと出していただかないと決まったことがわからない。人事異動で館長も変わり、わからないことがあったため、決まった作業ができず記録に書かれたことが不本意である。要点記録は遅くとも次回の会議の1週間前には届くようにしてほしい。録音もできれば聞かせてほしい。

事務局：不手際があり申し訳ありませんでした。

委員長：委員に限り録音を聞かすことはできないか。

事務局：機械に他の録音データも入っており、その回だけ抜き取ってお貸しすることが技術的に難しかった。

委員：他の館のことを知ることができたのは自分にとって大きな財産。この答申の活用の仕方、利用者の皆さんにどのようにして見てもらうか。これからの方がもしかしたら大変なのではないかと感じている。

委員：昨今、公民館が減少していく中、国分寺市の五館の取り組みが解決策になるのではないかと思う。日本全国に視野を向けたときに、公民館のあるべき姿、社会教育法に基づいた地域とのつながり、特に地域会議などは大変勉強になった。この情報化社会の中で、皆で集まって話し合い一つの方向に進んでいく、本来の日本的なものが、国分寺市では五館それぞれで機能して地域と連携できている。一つのモデルになる。この形を維持し守っていかなければいけないということも学べた。今後は、国分寺市としてこの取り組みをアピールしていくとともに、積極的に参加していきたいと思う。

委員長：図を提案していただいととてもよかった。答申に説得力を増したと思う。

委員：学校ではコミュニティ・スクールの取り組みを行っているのに、なかなか会議に参加できずに申し訳ない。公民館の役割と学校ということも改めて考えることができた。

委員：公民館を知っているほうだと思っていたが、実際には自分の利用している館しか知らず、他の公民館の取り組みを勉強させてもらい、国分寺市の公民館がこれだけのことをしているのだと肌で感じる事ができた。その集大成がこの答申ではないか。公民館の今後の課題としては、公民館を使っていない人にどのように公民館の良さを伝えていくかである。せっかく作ったものをどのように知らせられるのか、せっかくいい取り組みをしていても伝わらなければもったいないと思う。どう伝えていくかが課題だと思う。

委員：答申を読んだ感想を5つ。1番目は公民館活動について。委員それぞれが利用するだけではなく、公民館を作ってきたという背景があるから理解でき、書くことができたと思う。そういった意味では国分寺市の公民館活動の質の高さ、蓄積されてきたものが示されている。2番目は最初のころ私はつながりというレベルだけではなく、行政も含めた具体的な地域課題を解決するハード面もと言ったが、公民館を通した地域というのは、ほとんどがつながりとかコミュニティづくりとか

が関わってくるのだということ。このつながりが公民館活動の成功には重要であり、つながりと地域課題がリンクしていることを改めて読んでわかった。3番目は今後への不安。各館に公民館運営審議会がなくなり公民館運営サポート会議が置かれた。いい面もあるが、世代交代がきちんと行われていくのかが心配。どこの地域でも言われていることだが、若い人が来ないというのは重大な問題で、これだけ実績を重ねてきているのに、途切れてしまうのはもったいないし、何とかしなければと感じる。4番目にどうすればいいかということ。答申の概要版を作るうえで、予算を確保し、カラーで市民の関心を引くようなものができればと思う。大学の授業で公民館の課題を挙げさせると、必ずどのグループからも出てくるのがSNSとか情報の問題。公民館として公的にはSNSができないかもしれないが、利用者が行って、この流れをSNSに流すことはできるのではないか。情報戦略をどうするかは重要課題。次世代につなぐためにはどうすればいいか。公共施設予約システム稼働を機に、若い人が利用しやすくなると思うので考えていかなければと思う。5番目は国分寺市の歴史の重み。他市と比べて地域の歴史の重みと市民の関心の高さを感じた。しかしこれからは若い人を中心に新住民がどんどん増えてくる中で、どうつないでいくかを考えていかなければならないと思う。

副委員長：2年間あらためて勉強させていただいた。利用している館で公民館運営審議会委員を3期、引き続き運営サポート会議委員になり、この公民館運営審議会に参加して通算8年になる。5館とも知っているつもりだったが、改めてそれぞれのいいところが見えた。答申を読んで思ったのが、この答申は他市にとってテキストになるのではないか。近年、「地域づくりと公民館」というのはどこでも課題である。この答申を読むと分かりやすく、こういうことをしていけばいいということが書かれていると自負している。反省点としては、ワーキンググループに分かれたとき、利用者委員は各グループに参加し、討論に加わった方がよかった。やはり各館の実情はメール等文書では伝わりにくいのではないか。また、出来上がった答申をどう活かすか、読んでもらいたい人や知ってもらいたい人にどうしたら読んでもらえるか。今後の大きな課題になると思う。

委員長：皆さんの感想を聞くと、五館の特色やいいところを知るいい機会になったという意見が多かったと思う。作業は大変だったが、ここまでたどり着けたかいがあったと感じていただけたのではないか。今回第1期の公民館運営審議会の委員長を引き受け、大変だとは思った。国分寺市の公民館の全体像をとらえながら、5館が自立的に頑張ることの意味を原則とした。実際に公民館運営サポート会議からの提案を受けた形で残せたこと、これは今後の公民館運営審議会と公民館運営サポート会議の関係性の出発点になると思う。お互いに尊重しあう関係性を確認してつなげていってもらいたいと思う。また、皆さんが書い

た文章が、公民館でしてきたこと、公民館への思いがしっかり表現されている。一人一人が公民館活動の担い手であるという気持ちが、各章でとても感じられた。みんなで単純に分担して書いたのではなく、公民館をこういう風によくしていきたいという気持ちが集約されていると感じた。テーマである「地域づくりを目指した公民館のあり方」というのは総合的なテーマであり、公民館そのものが地域づくりを目指している。佐藤進氏の話聞き、三多摩テーゼの時代からをベースにし、国分寺市の公民館が何をしてきたのかを厳しく振り返るというワーキンググループの6つの柱、その作業の意味が国分寺市らしい地域づくりにつながる公民館像を浮き彫りにできたのではないと思う。してきたことが書いてあるものは説得力がある。これだけできる地域は全国でも少ないと思う。この答申は市民の方に読んでもらうことが第一だが、東京都公民館連絡協議会をはじめとして全国の方々に、公民館に市民が関わるとこうなるというガイドブック的な資料として手に取ってもらいたい。答申としては珍しい形であり、昨今公民館は特徴がなくなり弱体化をし、公民館を守るということを悲壮感や原則論で論じているものが多い中、国分寺市の答申は、自分たちの公民館での取り組みを基にしていて説得力を持っている。いわゆる都市型公民館である国分寺市において、障害者や外国人への取り組みを含め、農村型公民館とは違う地域づくりを行ってきた50年の歩みを読むことができる。大げさに言えば日本の公民館の今後に希望を与えるような答申になっていると思う。しかしながら、公共施設予約システムの導入で、公民館は部屋を借りられる施設の一つとして特徴が埋もれてしまう可能性がある。公共施設予約システムはとても便利である反面、公民館が作ってきた人のつながりの、ある種のアナログ的な部分が、わずらわしいものとして切り捨てられてしまう可能性がある。これをどう守っていけるかが重要な課題になってくると思う。若い人や新しい市民にどうつなげていくか、そういったことを考えると、この時期にこの答申がまとめられたのはよかったのではないか。公民館が弱体化している中で、この答申の6つの指標、今までの在り方を確認するものだが、実現するためには職員と市民が連携しなければならない。職員の人たちにもよく読み込んでもらい、その価値を共有してもらい、ぜひ次世代につなげていってほしい。ともあれ何とかまとめることができた。事務局も作業が大変だったと思う。感謝する。

承認について諮る。修正はあるか。

委員：中黒点の使い方について、私が赤を入れたところが修正されていないところがあるが、行政文書のルールか。

事務局：修正する。

委員：本日配布の修正分は行数が増えるのか。このページで押し出された数行分はどうするのか

事務局：次のページの冒頭に入る。

委員長：写真と図がいい。技術的な訂正はまだ修正できるがよろしいか。
無いようなので、先ほどの指摘を修正したものとして承認としたい。

委員：賛成。

委員長：では答申を承認する。職員から感想をもらいたい。

事務局：答申を確かに受け取らせていただいた。今回初めて市内で一つの公民館運営審議会がスタートするにあたり、非常に大きなテーマの諮問をさせてもらった。今の公民館を利用者の皆さんが活発に利用し、公民館に支援をいただいているが、全国的な公民館に対する厳しさは国分寺市でも同様と認識している。その中で市民と一緒に公民館を作っていくために、この答申は基本になっていくと思う。これから市民へ周知していくため、また意見をいただきたいと思う。

事務局：諮問を出すときに館長で、作成中は公民館から離れていたが、答申をいただくときにまた館長でいられたことを嬉しく思う。今後の館運営に活かしていきたい。

事務局：各館に公民館運営審議会があったころは、他館の様子は公民館運営審議会の交流会で伺う機会があった。一つの公民館運営審議会になり、利用者側からの事業への係わりについて意見を伺えたことは参考になる。答申を活かして市民が来やすい公民館を作っていきたい。

事務局：人事異動で公民館に異動してきたと共にこの公民館運営審議会がスタートした。他部署にいた頃は公民館がよくわからなかったので、自分自身も公民館を学び、答申作成を通して委員の方とのつながりを築くことができたと感じている。館で答申をどう活かしていくか、第2期の公民館運営サポート会議の皆さんと考えていきたい。

事務局：答申作成の途中から関わったが、公民館がどういうところかを答申の作成を通して整理することができた。今後、答申をどう活かすかは大きな課題と感じている。

事務局：関わった期間は短いですが、委員の皆さんがどういった思いで作られたか、先ほどの感想を伺い感じることができた。先ほど出たSNSなど情報戦略に課題があるのでしっかり考えていきたい。

事務局：原稿の締切などお手数かけました。ワーキンググループを通じ、どんどん答申文が成長するのを見てすごいと感じた。これからが大変だということも感じている。

委員長：以上で、第1期国分寺市公民館運営審議会を終了する。